

守山の「商店街」の魅力を探る



今回は、中山道守山宿と重なる、市内でも歴史のあるもりやま中央商店街を歩いて、地域の人の買い物やコミュニティの場になっている「商店街」の魅力を取材しました。

取材する子どもたちにとって「商店街」は未知の世界。商店街とは知らずに道を通っていたようです。商店街という商業集積の名称が生まれたのは戦後ですが、その起源は定かではありません。なぜなら、街道や幹線道路の沿道に店が集まるのは自然発生的なものだからです。

「中央商店街」は中山道守山宿を中心とする、市内でも歴史があるといわれる商店街です。モリヤマジュニアリポーターは、中央商店街で生まれ育ったという堀井美津江会長から、商店街の今昔や、買い物以外でも立ち寄り声を掛け合う地域コミュニティの拠点になっていることなど、魅力や役割を学びました。

中山道を歩いて、商店街を構成する「朝日屋セトモノ店」「ふくなが肉料理店」「鶴屋吉正」の3店舗で取材をしました。車社会となつて市民の消費傾向が郊外の大規模販店に移って行く中、中央商店街ではウェブサイトの通信販売に力を入れたり、店舗の一部を改装してカフェにしたりと工夫する老舗や、JR守山駅へのアクセスの良さと街並みのたたずまいなどに引かれて店を構えた新しい店舗など15店舗が軒を連ねていますが、どの店も買い物だけでなく、人と人のつきあいや会話を大切にしています。

モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで行い、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

①和菓子が完成 ②商店街通りの看板・デザイン ③商店街の中にある天満宮(上)と東門院 ④商店街の昔を写真で学ぶ ⑤うの家で中央商店街会長の堀井さんから商店街の魅力を学ぶ ⑥うの家を見学 ⑦老舗の「朝日屋セトモノ店」でインタビュー ⑧商店街(中山道守山宿)の地図を確認 ⑨10年前に開店した「ふくなが肉料理店」の店主を取材 ⑩商店街で一番古い「鶴屋吉正」で話を聞き、イチゴ大福とわらび餅づくりに挑戦 ⑪商店街を歩いて散策



今回は守山ニュース(BBC)の逆取材を受けました

中央商店街、お店のよさについて



津布工(つちぶこう)むぎ

中央商店街のお店について紹介します。まず、中央商店街に加盟しているお店は、老舗や新しいお店も合わせて15店舗で、その中でも一番古くからあるお店は、200年以上続いている、和菓子屋の「鶴屋吉正」さんです。新しいお店は「ふくなが肉料理店」さんです。

次に中央商店街の良いところです。良いところは、買い物だけではなく、人と人のつきあいを大切にしているところです。

商店街の歴史

後藤 夢叶(ごとう ゆめか)

商店街の歴史について知っていますか。商店街にはさまざまな歴史があります。例えば、取材した3つのお店のひとつ、「鶴屋吉正」は江戸時代から始まったそう、商店街の中では一番古いそうです。逆に新しいお店は「ふくなが肉料理店」で、10年前にできたお店です。ちなみに「商店街」という名前がついたのは戦争後なのだそうです。

このように、商店街にはさまざまな歴史があります。

歴史ある中山道の商店街

白澤 颯己(しらかわ せつぎ)

中央商店街は、守山で一番古い商店街で、土地の形は江戸時代から変わっていないそうです。取材前に行った「もりやまいち」は、さらに古く室町時代から続いている、一度止まってしまったが、復活して30年になるそうです。

商店街の良いところは、人と人のつながりが多いところです。今回中山道を散策して、店主が7代目という歴史があるお店もあり、市民に愛されていることが分かりました。

老舗和菓子屋のイチゴ大福づくりに挑戦



商店街の努力

後藤 空叶(ごとう そらか)

皆さんは、商店街の努力を知っていますか。私たちは今回、3店舗を取材しました。

ネットを活用して商品を売ったりお店の広告を作ったりしているお店や、家族などで継いで、200年以上続いているなど、さまざまな努力をしているお店があります。

このような努力のおかげで、江戸時代から今現在まで、人々が集い、つながることができる場所として古くから愛され続けています。

モリヤマジュニアリポーター ミッションを修了

守山の魅力をたくさん知りました



「モリヤマジュニアリポーター」は、新鮮な感性を持つ小学生の目線で守山の魅力を発信するとともに、子どもたち自身にも守山をもっと好きになってもらうための企画です。また、企画から、取材、執筆、編集までページ制作に参加することで、普段できない体験や学びにつなげてほしいと考えて取り組んでいるものです。

モリヤマジュニアリポーターに応募してくれた児童4人は、1回目「市民活動」、2回目「商店街」と、事前学習や取材、執筆の勉強をした上で、写真撮影や記事編集に積極的に関わりました。

取材本番ではインタビューや体当たり体験を通じて、自分なりのテーマとタイトルで記事を書き上げて広報もりやまに掲載。最後には守山市から感謝状が贈られました。

1年間の活動

- 顔合わせ
アイデア出しゲーム
市民活動の事前学習・模擬取材



- 市民交流センターで取材本番
- 記事執筆・推こう
- 10月15日号掲載



- 商店街の事前学習・模擬取材
- 中央商店街で取材本番
- 編集会議・記事推こう
- 感謝状授与
- 2月15日号掲載



広報担当者の
つぶやき

私も1年目の初心者なので、初めは不安もあり、刺激をもらいながら一緒に勉強してきました。子どもたちの文章が見違えるほどに上手になったのを実感した時は、うれしかったです。

1年間のリポーター活動を振り返って



モリヤマジュニアリポーターは2回目。昨年より作文もうまくなったような気がします。

今年1回目の取材で、市民活動のお手伝いをして小さい子と遊べて、私も楽しくなったことが印象に残っています。

津布工こむぎさん(5年)



1年を通して、取材や記事を書くという普段できない経験ができました。知らない人と話すコミュニケーション力もついたと思います。

リポーターをしたことで、守山の魅力が分かったし、市民活動に興味を持ってました。

後藤 夢叶さん(5年)



最初は「できるかな」と思っていたけれど、勉強していくうちに取材や事前学習が面白くなりました。一番楽しかったのは商店街の取材です。全然知らなかった商店街のことを知ったし、自分で作った和菓子はおいしかったです。

後藤 空叶さん(5年)



商店街のいろいろな所を散策できて面白かった。いい経験になりました。もともと作文は嫌いではありませんでしたが、記事のテーマを考えるのが難しかった。でも、文章を書く力がついたので、学校の作文でも役に立ちそうです。

白澤 颯己さん(4年)